

# 日本ボストン会会報

発行所 日本ボストン会事務局

## 日本ボストン会活動について

会長 佐々木 浩二

この11月で2年の会長任期を会員の皆様のお蔭で何とか務めることができ、御礼申し上げます。私の2年間の活動ならびに次期会長、次々期会長についてご報告します。

まず、井口武夫前会長から引継ぎました日本人留学生の記録については、三好彰幹事を中心に精力的に調査研究を進めていただいておりますが、本件については別項でお伝え申し上げます。

さて、話題をこの2年間の活動報告について触れさせていただきます。一昨年の米国の「ボストン日本協会」設立100周年に際して、Mayflower号を描いた記念の絵皿を贈呈、関係団体の名古屋ボストン美術館の会員になり、友人知人も勧誘、音楽の会主催のコンサートやお花見の会に参画、(2005年の浜離宮でのお花見にはMIT本校同窓会の名誉ヴァイス・プレジデントのWilliam Hecht氏が、また、2006年のお花見の会では、ボストンから吉野静子会員他の里帰りされた方々と京都ボストン交流の会会員の方々も参加)、会員増強に努力、ゴルフの会の優勝者には佐々木杯を提供させていただいたことなどがあります。

また本年4月には日本MIT会の役員数名でMITを訪問し、増淵興一先生ご夫妻とは一緒に夕食をしました。MITでは、初の女性総長Susan Hockfield博士のリーダーシップのもと、エネルギー問題および生命科学と工学との関わりに全校挙げて活発な研究活動が展開されております。ボストン滞在中に「ボストン日本人会」の中塚久生副会長とも交流しました。最近では本年6月25日に「京都ボストン交流の会」の総会(55名出席)に参加し、直後に予定されていた祇園祭の魅力、祇園囃子の楽しみと題した講演と、素晴らしい尺八、琴の合奏を堪能しました。引き続き懇親会に参加し、会員の皆さんとの交流を楽しみました。

以上は私が参加できた範囲の活動ですが、この他にも当会会員の皆様が自主的に開催される多くの文化・親睦活動から日本ボストン会は成り立っており、

改めて日本ボストン会自体の活動の広さと関連組織とのつながり、そして歴史の縦系にしっかりと眼を向けた活動姿勢を思うと、当会の会員であることに幸せを感じています。

ここで次期会長についてお伝えいたします。茂木賢三郎元会長からご紹介をいただいたハーバード・ビジネススクール同窓会会長の鶴正登氏にご就任いただくことになりました。鶴氏は昭和45年住友銀行入行を経て、後に日本オイルシール工業株式会社(現在のNOK株式会社)に入社されました。ハーバード大学経営大学院にて昭和52年MBAを取得され、現在は同社代表取締役会長兼社長で、日本自動車部品工業会会長を兼務されています。鶴氏の奥様は増淵MIT名誉教授奥様の文子さんとお知り合いであったこともつい最近判明しました。

鶴氏の次の会長(2008年11月～)候補に株式会社フェローテック社長の山村章氏をご推薦申し上げます。山村氏からは次々期会長候補をお引受いただけるとのご承諾をいただきました。山村氏は昭和44年ボストンのノースイースタン大学の修士課程を修了されました。ケンブリッジ・サーミオニクス社を経て、フェローフルイディクス社[現フェローテック(USA)]コーポレーションに入社され、日本法人(現株式会社フェローテック)代表取締役社長に就任されました。その後、米国親会社をTOBにより買収し子会社化、現在上記米国法人の最高経営責任者のほか、(中国子会社の)杭州大和熱磁電子有限公司と上海申和熱磁電子有限公司の董事長を兼務されています。三人のお子様の内、お二人はボストン生まれだそうです。

今年の総会において、次期会長、次々期会長の選任をご承認願います。今後はハーバード・ビジネススクール、ボストン大学、ノースイースタン大学、アマースト大学などの同窓生にも日本ボストン会の活動への参加、入会を勧めて行き、活動の輪を広げて行きたいと考えています。

## ボストン日本人学生会

会長 佐々木 浩二

日本人学生会の会合記録は井口前会長から引き継いだ調査研究課題です。私が本年4月にMITを訪問した折にIndustrial Liaison Program日本事務所長を兼務するCarl Accardo氏や同窓会、また現地「ボストン日本人会」他にも問い合わせてみました。私のMIT登録アカウントを利用して、ウェブサイトでは昔の留学生の記録も調べてみました。三好彰幹事には膨大な時間を費やして調査・整理に取り組んでいただいております、その成果をご紹介します。

ボストンおよびその近郊での日本人の勉学の歴史はジョン万次郎から新島襄を経て、明治期の官界、学会、産業界で大きな足跡を残した金子堅太郎、小村寿太郎、伊澤修二、団琢磨などに引き継がれて行きましたが、明治期の半ば以降では留学生が増え、自然発生的に日本人学生が親睦会を学内に持つようになりました。その当時からのことを記録した4巻からなる「ボストン日本人学生会」の記録集を現在日本ボストン協会が保管しています。

大正中期からYMCAを中心としたキリスト教関係者が会を司るようになりますが、当時、西海岸で巻き起こっていた排日運動と無縁ではなかったと思われます。昭和に入って活動が低下するのは日本軍の大陸侵攻もあって留学生の数が減ったことが挙げられ、記録集は昭和9年の新年会の記事で切れています。太平洋戦争が始まって留学生は帰国を迫られ、この記録集はボストンに残されたままになるのですが、戦後に留学した女子学生が記録集を見つけ出し、昭和9年の新年会の次のページから戦後の記録が書き続けられているのです。その中のボストン・マラソンの記事では、当会の会員でもある山田敬蔵氏が当時の世界記録で優勝しています。留学生が多くなるにつれ、学外にわたる親睦会の活動が難しくなったためでしょうか、この記録集の記事は昭和28学年度で終わっています。記録集に出てくる日本人学生と学生を支えた日系人は600人を超え、また学生を支援したアメリカ人が約200人います。

種々の情報源から日本人(日系人も)については約6割の方々、アメリカ人については約4割の方々について、何らかの情報は得られています。本会のホームページでこの記録集に登場する方々を紹介していますので、ご覧いただき、お気づきの点をご連絡いただければ幸いです。

## 学生会発足当初の活動

三好 彰

ボストン日本人学生会は明治41学年度から活動している。初期の活動の様子を紹介する。文中では敬称を略す、なお学生会員名に続く括弧の中は、後年の主な仕事である。

アメリカの学年度は9月からであるが、新学期が始まる前の同年5月に会則を作っている。それによると、当初はハーバード大学で学んでいる日本人学生を正会員とし、マサチューセッツ工科大学(MIT)の学生を準会員と取り決めている。しかし、他の大学も対象にするようの方針を変えている。また学生会員のほかに、本会ならびに日本に理解のあるアメリカ人を名誉会員にすると定めている。

本会の目的は親睦を図ることであり、学年度初頭に総会を開くと定めている。幹事団で行事の内容や会の運営方針を検討している。

幹事団の第一回会合は明治41年11月1日に浅野良三(日本鋼管社長)宅で行われた。この会合で初代会長として望月松太郎(外交官)、副会長として新井米男(日系人で日系企業の幹部)を決めている。最初の名誉会員を次のように決めている。

Lawrence B. Evans: Tufts College教授

森本 辰太郎: 山中商会

J. D. Greene: キリスト教団体American Boardから日本に派遣されたDaniel Crosby Greeneの息子、Jerome Davis Greeneと考えられる。

C. McCauley: 1889 年来日。ユニタリアン宣教師  
1909 年に旭日賞。

Harris Kennedy: 経歴不明。

Edwards S. Morse: 大森貝塚を発見した元東大教授。

L. H. Lane: 経歴不明。

D. W. Ross: ハーバード大学教授。氏の肖像画はボストン美術館にある。描いたのはKanji Nakamuraという留学生。

Edwin H. Walcott: ボストン駐在帝国名誉領事。

Langdon Warner: 京都・奈良を戦禍から守った恩人。岡倉天心の高弟。

明治42年3月に開催された第4回会合にMITから朝永五郎(経歴不明)と鈴木宏之(経歴不明)、ボストン大学から影山千鶴樹(早稲田大学商学部教授)が参加した。次年度からの記録は英語で書かれた短文であり、大正元年度まで続く。その後しばらく記事は途絶えて、再開するのは大正6学年度であり、日本語の記述に戻り大学の区別はされていない。

## ボストン日本人学生会の記録

記録集時代区分： ○ 内は学年度	代表的な人物・略歴、 ○ 内は会合出席年。
1 明治期(1907-1911)	浅野 良三(1908-11) 浅野セメントの創設者。日本鋼管社長。 横山 有策(1908-09) 早稲田大学教授、坪内逍遙の後継者。
2 大正初期(1912-1916)	姉崎 正治(1914-19) 宗教学開拓者、東大教授、ハーバード大学客員教授。 八木 秀次(1915) 超短波無線の発明者。 野間 真綱(1915) 英学者、夏目漱石の門弟。 保井 コノ(1915) 植物学者、日本女性初の博士。
3 " 中期 I (1919-1921)	山本 五十六(1919) 海軍大将・元帥。連合艦隊司令長官。 鮫島 実三郎(1919) 物理化学者、東大教授、寺田虎彦研究室の後継者。 平野 千恵子(1919-33) ボストン美術館(MFA) 東洋部勤務。
4 " " II (1919 -1921)	堀内 敬三(1922) 訳詞家、音楽評論家。 赤木 英道(1920) 日系人、在米日本人キリスト教学生会のリーダー。 藤代 真次(1920-33) 矯正歯科医(開業医)、長年留学生のお世話役。
5 " 後期(1922-1926)	池原 止戈夫(1924-51) 数学者、東京工業大学名誉教授。 鶴見 祐輔(1924) Williams College講師、政治家。和子、俊輔の父親
6 昭和戦前(1926-1933)	本城(東郷)文彦 外交官、駐米大使(戦後)。 都留 重人(1934) 経済学者、一橋大学学長。 大澤 寿人(1934) 米ソ交響楽団(BSO) を最初に指揮した日本人作曲家 上條 勉(1934) 新三菱重工・名古屋航空製作所・副所長。
7 " 戦後 I (1948-1950)	鮎川 弥一(1950-54) 鮎川義一の長男、学生会の纏め役。MIT 理事を務め 日米間の技術・資本交流に貢献。ベンチャー・キャピタリスト。 松岡 洋子(1950) ジャーナリスト、評論家、女性運動家。 大谷 光紹(1950) 浄土真宗東本願寺派法主。
8 " " II (1951)	斉藤 真(1951-52) 政治学者、文化勲章受賞者。 小林 規威(1951-53) 国際経営学者、慶応大学名誉教授、本会会員。
9 " " III (1952-1954)	井草 準一(1953) 数学者、フィールズ賞受賞者。 小柴 昌俊(1954) ノーベル物理学賞受賞者、米ソ地区の会合に参加。
10 外国人：明治期(1908-1911)	Langdon Warner(1907) 京都・奈良への戦禍を防いだ大恩人。 Edward S. Morse (1908-20) 日本美術品の収集家、東京大学教授(1877-79) Henry S. Munroe(1909) 札幌農学校教授。金石学*者。(*鉱物理学の古称)
11 " : 大正期 I (1912-1920)	Sydney Gullick(1910) 青い目の人形を日本に送る運動の推進者。 Cyrus E. Dallin(1920) MFA 正門前のインディアン像の製作者。 J. S. Dearing(1920) 1889来日 バプティスト派宣教師・教育者。 A. Lawrence Lowell(1920)ハーバード大学の名物総長(1909-1933)、歴史学者。
12 " : 大正期 II (1921-1926)	Roger W. Babson(1921) バブソン大学の創設者。 Charles W. Elliot(1922) ハーバード大学総長(1869-1909)、総合大学に発展させた
13 " : 戦後(1950-1954)	Sergei Erisseeff(1951) ロシア人、外国人初の東大国文科卒、ハーバード 大学に於ける日本学の開祖として多くの研究者を育成した。 Edwin O. Reishauer(1951) 日本研究者、駐日アメリカ大使。
注：明治41年(1908)学年度から昭和28年(1954)学年度までの日本人学生会記録集全4冊から代表的な方々を抜き出したリストである。帰国後に各界で活躍された方が多い。ボストン地区に留学された方をご存じのご家族・知人からご連絡をいただければ幸いです。 連絡先：日本ボストン会事務局	

## 2006年千鳥が淵の桜に思う

水野 賀弥乃

平成18年4月1日、恒例の日本ボストン会の観桜会が3年ぶりに千鳥が淵に戻ってきた。肌寒さの残る夕暮れ、パークマンション脇に会員が集合し、和やかに楽しい観桜会が始まった。

今年の桜は心なしか白さが勝っているように思う。まさに満開の桜に誘われ出でた花見客の多さに圧倒されつつも、樹下では楽しいおしゃべりの花が満開、延々と流れ往く。まだ一片も舞わずにいる桜花のたわな枝を見上げながら、桜吹雪を全身に浴びた数年前の観桜会を思いだした。今年はもう一度来てみようかと独り言。

6時半からの九段会館での懇親会は、幹事の生田英機様の開会の辞に始まり、まず遠路の参加者から順番に紹介され、佐々木浩二会長が生田様のご配慮を謝し、ボストンからのお里帰りグループ、京都からの参加者に歓迎の辞を述べられた。ボストングループからは吉野静子様、石川喜子様、宇田悦子様、沖洋子様、菅野保子様、現在カルホルニアに移り住んでいる原紀雄様ご夫妻、京都からは田中律子様、ジャメッツ登三子様ご夫妻がこの千鳥が淵の桜を愛でに駆けつけられ、私がお招きした吾妻綾子様、森野経子様も加わって各々が自己紹介をされた。

会場にはもう一組のお客様がお待ちだった。能面師の橋岡一路先生と久美子夫人である。お能を愛好される生田幹事のご了承をいただき、懇親会にて橋岡先生のボストン美術館での能面の修復と夢について語っていただいた。

橋岡先生は12年前に鹿島財団の要請を受けて、ボストン美術館所蔵の能面調査を行い、2週間の滞在中に165面すべての調査を終了、更にそのうち5面の修復をされた。その折りに出遭われたボストンの方々のホスピタリティとボランティア精神に大変感動された由。「いつか、ボストンの方々にご当地所蔵の面と装束の生きた姿をご覧いただきたい、美術館の芝生で薪能をお目にかけることができたら・・・ご恩返しができます。それが私の夢です」と今も募るボストンの方々への感謝と熱い想いを語られた。

また懇親会当日、北の丸公園での写生会に参加された方々の作品も紹介され、篠崎史朗様による参加者の写真撮影、最後は藤盛紀明副会長のご発声による三本締めの手拍りで懇親会は8時半に終了した。

毎年、ボストンを愛する方々と観桜会で集えることは大変意義深い。自身の中の日本とボストンの絆-日本人としての誇りと、ボストンへの郷愁-を会員の皆様と分かち合うことができるからだ。日本ボストン会の観桜会の温かさや和やかさは、やさしいさくら色に染まって私の心に沁みってくる。



左より  
幸野夫人  
水野賀弥乃  
吾妻綾子  
俣野夫人  
森夫人  
関夫人



左より  
森啓  
俣野夫人  
俣野善彦  
土居陽夫  
酒井一郎  
藤盛紀明  
吾妻綾子  
幸野真士  
近藤夫人  
生田英樹  
近藤宣之  
當間秀雄



橋岡一路先生



日本ボストン会観桜会 (二〇〇六年四月一日、日曜日) (敬称略)

- |              |      |            |       |       |               |      |      |      |      |      |      |
|--------------|------|------------|-------|-------|---------------|------|------|------|------|------|------|
| 三好夫人         | 三好彰  | 原紀雄        | 田中律子  | 沖 洋子  | 菅野保子 (すがのやすこ) | 西川文夫 | 當間秀雄 | 近藤宣之 | 近藤夫人 | 俣野夫人 | 俣野善彦 |
| 宇田悦子 (うだえつこ) | 吉野静子 | 石川喜子 (よしこ) | 佐々木浩二 | 佐々木夫人 | 原夫人           | 橋岡一路 | 橋岡夫人 |      |      |      |      |



- |            |     |      |     |      |       |      |      |      |       |      |      |      |       |       |      |          |     |      |      |      |     |
|------------|-----|------|-----|------|-------|------|------|------|-------|------|------|------|-------|-------|------|----------|-----|------|------|------|-----|
| 石川喜子 (よしこ) | 森夫人 | 土居夫人 | 関夫人 | 吉野静子 | 水野賀弥乃 | 生田英樹 | 幸野夫人 | 幸野真士 | 佐々木浩二 | 橋岡一路 | 橋岡夫人 | 橋岡夫人 | 佐々木夫人 | ジャメンツ | 藤盛紀明 | ジャメンツ登三子 | 原夫人 | 吾妻綾子 | 當間夫人 | 森野経子 | 森 啓 |
|------------|-----|------|-----|------|-------|------|------|------|-------|------|------|------|-------|-------|------|----------|-----|------|------|------|-----|

観桜会

## 里帰りに見た風景寸描

石川 よしこ

### お花見とダックス・フント

毎年一回は帰国し、いこいの旅行も3回目、東京に住んだこともあるのに、未だ一度も千鳥が淵の桜を見物したことはなかった私、余りの美しさと人の多さにびっくりしてしまいました。

里帰りグループ・メンバーには、お堀りに沿って建てられたマンションの一室から桜をめぐる機会が準備されました。特に全面ガラス張りのリビングルームから拝見した、眼下に広がる満開の桜の波、緑の武道館の屋根に映えて、それはそれは美しく、雲上人になったような幸せな気分になりました。

それから下界に下りて参りましたが、丁度ライトアップされた千鳥が淵はそれはそれは見事でした。

そして日本ボストン会の皆様に早くお目にかかりたいと九段会館を目指しましたが、道一杯の人ひとひと、中々思うように歩けません。全く運悪くリボンをつけてコートを着た小さなダックス・フントの後についてしまいました。

足元で自由自在にウロチョロし、時に急に立ち止まるお犬様、踏みつけないように歩くのは大変なことになりました。下ばかり見て、上を向いてお花見を楽しむ間がありません。前に追い越せないならばと、申し訳ないが後の方に追い越していただき、やっとやれやれと一安心。どうして抱き上げて下さらなかったのかとつくづく思いました。

やっと着いた九段会館はお日柄がよく、結婚式も多く、大変な賑わいでした。しかし懐かしい方々が待っていてくださり、日本ボストン会の方々の立派な懇親会にも出席させていただき、本当に楽しい一日でした。ありがとうございました。

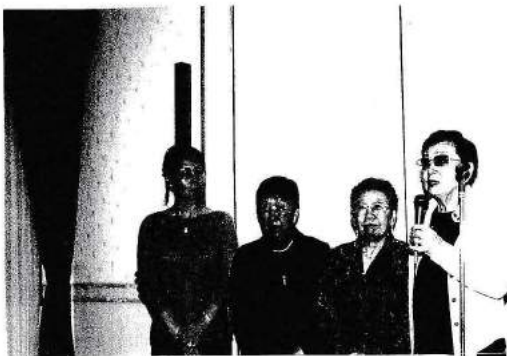


写真 (左から) 沖、石川、宇田、吉野。  
菅野 (写真欠席)

### 風情を忘れぬホームレス

定宿になってしまったホテルから近い日本橋川の橋のたもとの茅場町駅前、道をへだてた公衆トイレの脇にホームレスのおじさんの小屋がありました。

初めは何とお花がいっぱいあるなーと思うだけで通り抜けて仕舞うほどの小奇麗な構え、小屋の回りには大きな鉢植えの木や花で囲まれていました。

時々、水をやっている男のひとを見かけました。まるで、道行く人に楽しんで貰おうとしている様に思われました。

よく見ると、小屋中一杯に窓があって、黒棧の障子の様なものが掛かっていました。夏は庇に早変わりして川面を渡る涼しい風が吹き込むといった仕掛けの様に見えました。時々、近寄らないと聞こえて来ない位の音で、ミュージックが流れていることがありました。

ある時、地下鉄の駅から出てきた吉野さん、運悪く雨が降りだしていました。この様子を見た小屋のおじさんが傘を貸して下さった由。お礼をしようと吉野さんに、「イエエ、イエエ、傘も又のお役に立って喜んでいるでしょう」と言ったそうです。彼の家の前には、何本もの傘が用意されていたそうです。この親切に対して、彼女は何か心の温まる様な品物はないかと心を砕いていました。

なぜ家をなくされたか判りませんが、小屋を花で飾って道行く人々の目を楽しませたり、人の役に立とうと考えたり、友人と助け合ったり、何とも心地よく、優雅ささえ感じさせられました。やっぱりこれが日本なんだなーと思いました。

### 旅から戻って

美しい桜の季節からあつと言う間に、一足飛びに浜木綿香る頃となって仕舞いました。

その節は大変お世話さまになりましてありがとうございました。遅まきながら佐々木会長、近藤様、皆々様方に何とぞよろしくお伝えくださいます様にお願い申し上げます。

婦人部もお蔭様で順調で、大バザールも近づき、クラフト部では、10月の日本語学校文化祭の手伝いとしての作品100個もやっと揃えることができました。役員の皆様も忙しい仕事の中、新しい「ボストンようこそ」も9月半ばには仕上げる様に頑張っています。又、よろしく願いいたします。

(ボストン日本人会婦人部顧問・  
クラフト部責任者)

紅葉狩りの会

「秋をスケッチする会」

2006年紅葉狩りの会

日時: 2006年11月3日(金) 午前11時  
 集合場所: JR青梅線 御嶽(みたけ) 駅前  
 会食場所: 「ままごとや」 午後2時開始  
 (清酒 澤乃井 直営 豆腐・ゆば中心料理)  
 東京都青梅市沢井2-748  
 (☎0428-78-9523)  
 費用: 3990円(酒代別)

絵になるスポットが多いようです。軽微な画材を携えて、秋の澄み渡る景色をスケッチしましょう。回毎に参加者が増えつつあり、楽しいひと時を期待できます。お気軽にご参加下さい。

\*集合時間: 11月3日(金) 午前11時  
 \*集合場所: JR青梅線御嶽(みたけ) 駅  
 \*紅葉狩り会員と沢井の「ままごとや」で午後2時に合流し、昼食をとります。

解説: 奥多摩の紅葉の見どころは、場所によって異なり、10月中旬から11月下旬と幅があります。御嶽駅周辺は10月下旬から中旬がみごろと観光案内やインターネット投稿が多く見られます。ハイキングの専門家である幸野幹事や、絵を描く会の西川幹事ともご相談して、その中間の11月初旬に日程を設定しました。3連休の初めの日ですが是非ご参加下さい。

参加ご希望の方は幹事宛にお知らせ下さい。

西川文夫 E-mail f24kawa@gaea.ocn.ne.jp

藤盛富美子 E-mail f-fumiko@pb3.so-net.ne.jp

周辺には玉堂美術館、吉川英治記念館、寒山寺、澤乃井櫛かんざし美術館などがあり、玉堂美術館前は紅葉のポイントです。

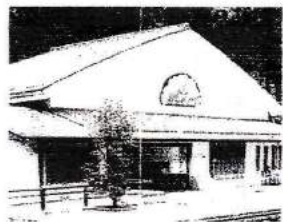


●吉川英治記念館  
 文豪・吉川英治が戦争中に疎開してきて住んだ屋敷をそのまま保存。彼の原稿や掛け軸、色紙、書簡など約三百点が展示されている。



●玉堂美術館  
 晩年をこの地で過ごした日本画の巨匠川合玉堂を記念して建てられた。玉堂の作品や遺品などが展示されている。

多摩川を挟んで青梅街道の反対側に御岳溪谷遊歩道があり、エメラルド色の清流と紅葉の素敵な素晴らしいウォーキング道です。



●櫛かんざし美術館  
 江戸から昭和に至るまでの櫛とかんざしを中心に紅板、はこせこ、かつら、矢立等を取集・展示。季節により年四回展示替えを行います。

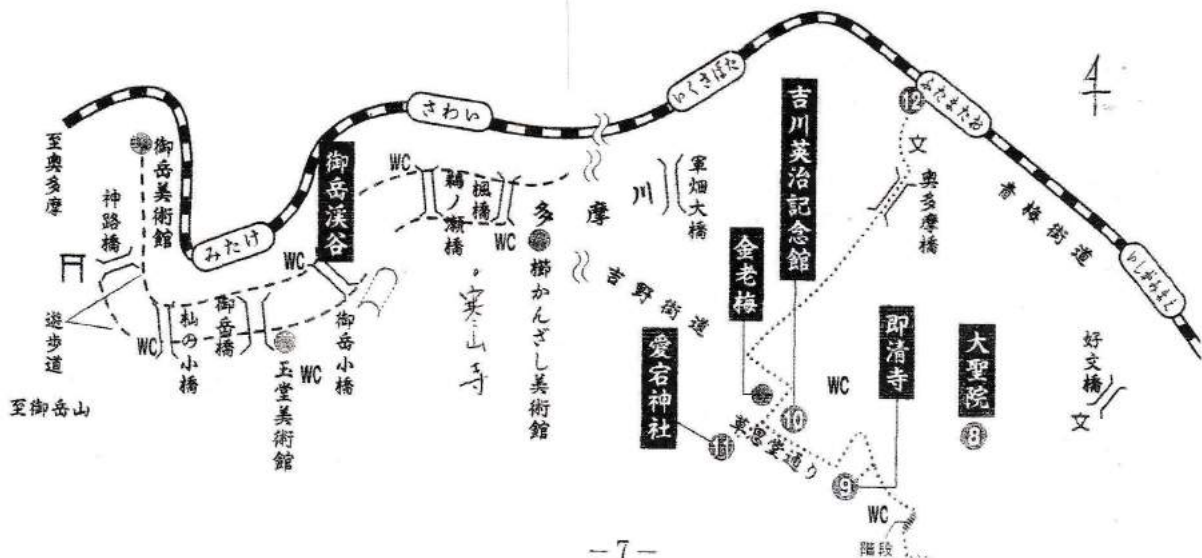


●青梅きよもの博物館  
 日本の伝統美・きよものを収集した博物館。館内には、宮廷衣装から江戸時代の大名や公家などが愛用した着物が数々展示。

会食場所は清酒・澤之井で知られる小澤酒造の直営です。会食予約のために、第1次申込みを10月2日(月)、最終申込みを10月20日(水)とします。

なお、酒造見学も可能ですが、ご希望を併せてお知らせ下さい。ご希望が多ければ予約します。

申込み・連絡先: 藤盛紀明・富美子



## ゴルフ懇親会報告

山崎 恒

今年度の春季ゴルフ・コンペは4月20日、サンメンバーズ・カントリークラブで開催しました。

メンバー会員の吉田さん、幸野さんが負傷欠席されて残念でしたが、9名が参加されました。

スタート1時間前から雨が降り始め、午前中は土砂降りといってよいほどの雨の中の熱戦になりました。昼休み少し前から吹きはじめた強風が雨雲を吹き飛ばしてくれ、午後は打って変わった青空となりました。全く違う日にアウトとインをプレーした様でした。

今回からは佐々木会長から優勝杯が寄贈されて、この杯を争うことになりました。久しぶりに茂木さん、荒金さんも参加して下さり、この悪天候の中で、第一回目は近藤宣之さんが46 45というすばらしい成績で優勝されました。二位には山崎規矩子さんが入りました。次回は千葉の泉カントリークラブで開催を予定しています。

## 第23回ゴルフ懇親会

10月6日、泉カントリークラブにて開催されます。当初は10月26日と決定していましたが、6月の幹事会で急遽6日に変更されました。

歴史を飲む会

### ー江戸情緒を尋ね歩くー

日本橋本石町の日本銀行別館の貨幣博物館は近世日本の通貨事情や庶民の金銭感覚を学ぶには最適の場所である。近くには三井記念美術館もあり、三井家に伝わる伝統工芸・美術品を鑑賞することが出来る。

この界限一体は江戸下町の中心地であり、魚河岸、寄席、牢屋敷などの記念碑なども残っている。

今回はこれらのスポットを巡り、往時にタイムスリップと洒落て見たい。お決まりの忘年会は三越の近くのそばや「利休庵」を予定している。

日時： 12月9日(土)午後

(註：諸事情で予定が変更されることがあります)。

幹事 篠崎 史朗

## 秋の美術の会ご案内

### 美術鑑賞 国立西洋美術館 コレクション(常設展)

当会会員の三好美智子さんに案内とギャラリートークをお願いしております。ご都合のつく方のご参加を歓迎いたします。

- 集合日時： 10月21日(土)午後3時  
 集合場所： 国立西洋美術館前庭の〈地獄の門〉付近  
 交通： JR上野駅下車(公園出口)徒歩1分  
 観覧料： 一般 420円、65歳以上 無料。  
 詳細： ホームページ <http://www.nmwa.go.jp>  
 懇親会： お店：「過門香 上野バンブーガーデン」  
 電話 03-5807-2288  
 料理 中華料理  
 時間： 午後6時より  
 参加連絡先： 酒井 (E-Mail [k2-sakai@ktd.bigobe.ne.jp](mailto:k2-sakai@ktd.bigobe.ne.jp))  
 (☎：050-7570-4692)  
 その他： 特に念入りに鑑賞したい作品、例えば印象派の風景、人物、静物など、事前にお知らせ下さい。

## 音楽の会

今年は諸般の事情で、開催する機会がかなわず、申し訳なく思っております。ボストン・ポップスの来日のチャンスも今しばらくは少ないようです。当面、次の形で活動を続けたいと考えています。

- ①当会のメンバーや、そのご家族でプロの音楽家として広く活躍されている方が結構多いので、ホームコンサートの形でリサイタルをお願いする。
- ②当会のメンバーや、当会と関係のある演奏家のコンサートを電子メールなどでその都度紹介し、皆さんで応援する。 幹事 関 直彦・尚子

## ホームページ

ホームページ開設から4年を経て、ページ数や写真が増え、サーバーのディスクスペースが足りなくなりました。

そこで、生田幹事にご尽力をいただき、BIGLOBEさんのご厚意でご提供いただいているディスクスペースをこれまでの倍の20MBに増やしていただきました。 幹事 佐藤文則



美術の会

Poussin Nicolas (1593-1665)

### 酒井典子

毎年楽しみに訪れるMontreal Museum、今春の展覧会はHermitage Museum所蔵展、題して“Caterine the Great, Art for Empire”。その混み方は東京並み、4月2日、さっと一通り鑑賞する。展覧会も終わりに近い5月中旬にもう一度来訪し、ゆっくり会場を回る。

赤い絨毯を敷いた正面階段の上段に展示されている馬車は、きらびやかなまるでおとぎの国から現れたかの様である。ロシア史を知る上での貴重な作品の数々が所狭しと展示されていた。

沢山のネオクラシック絵画の中に、後の画家、例えば、セザンヌ、ピカソに影響を及ぼしたPoussinの105x145cmの大きな作品が目に入った。“The Rest on the Flight into Egypt” (1655-1657) である。

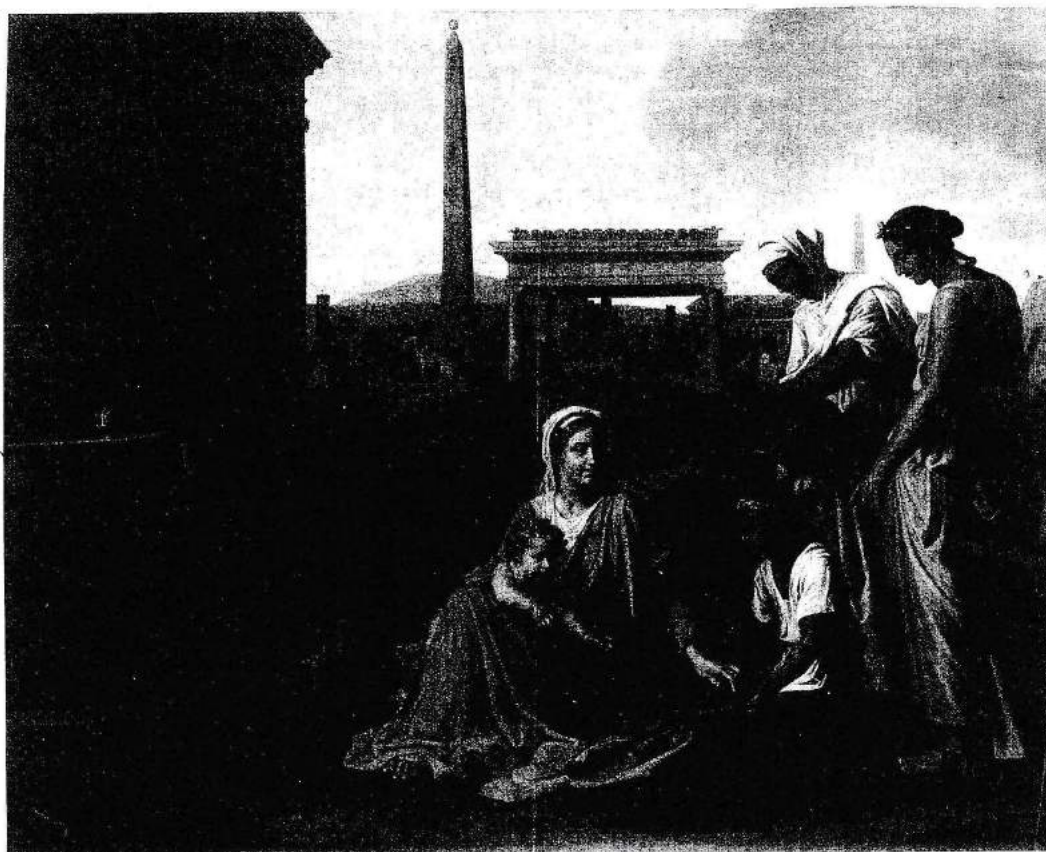
National Gallery (Washington, D. C.) 所蔵の作品、“Holly Family in the Steps” (1648) が思い起こされる。構図、色彩構成がとても似ている。二つの作品ともに後景に描かれたキュービク建築、中央にワックス化されたマドンナ、そして赤いドレスにまどろむ様な午後の光が当たる、微笑をたたえるマドンナは喜びに満ち満ちている。両作品のピラミッド風の構図はレオナルド、ラファエロのマドンナのグループを思い起こさせる。

3月初旬 (3/6 ~ 5/26) から5月末にかけて、モントリオール郊外の景色が目まぐるしく変わる。オンタリオ湖から流れてくるセント・ローレンス川の水の豊かさに驚く。冬



NICOLAS POUSSIN. *Holy Family on the Steps*. 1648. Oil on canvas, 27 × 38½". National Gallery of Art, Washington, D.C. Samuel H. Kress Collection

の白く輝く木々も、早春の芽吹きの際に劣らず美しい。対岸の景色が夕日に染まり、息を飲む程美しい川の氷も溶ける頃、大地の木々、花たちは毎年変わることなく、春の日の光を待ちわびている。あっと言う間に日が過ぎ去り、日本へ帰る日が近づいてきた。



Poussin Nicolas, “The Rest on the Flight into Egypt” (1655-1657)  
Hermitage Museum, Saint Petersburg State, Russia

## 飛鳥Ⅱで行く

### 竿燈・ねぶた祭クルーズ

久米生光

この8月初め、日本郵船(株)の新客船「飛鳥Ⅱ」5万トンで竿燈・ねぶた祭クルーズにでかけた。横浜発着、7日間(船中6泊)の人気コースである。

夕刻5時出港、翌日は終日洋上日、穏やかな航海が続き三日目午前8時秋田県男鹿市船川に入港、快晴。予想よりやや暑い湿度は低く快適だ。

乗客全員が21台のバスに分乗、着岸岸壁より少し離れた市民会館へ移動、なまはげ実演等ローカルカラー豊かな熱烈歓迎を受ける。

午後船は秋田港に移動、同夜の竿燈祭りに備える。東北三大祭の一つ、竿燈祭りは高さ12メートル余りの竹竿に稲穂を型どって数十個の提灯を釣り下げ、(重さ50キロを越える)、笛太鼓の音曲に合わせ額や肩、腰に載せて高く掲げ、妙技を競う。その数230本、吊るされる提灯は1万個に及ぶ。

船側の用意した特別席で華麗なパレードに酔いしれた深夜、飛鳥Ⅱは秋田港を離れる。翌朝定刻10時青森港・新中央埠頭に着岸。

青森市はかつての青函連絡船をはじめ港を中心に発展した。船上より街を望めば右手にJR青森駅、その手前の海上にメモリアルシップ八甲田山丸が見える。同日夜はこのクルーズ一番のお目当て「ねぶた祭」見物。市の大通メイン会場、船客用棧橋へは港よりそぞろ歩きで15分、海風が心地よい。

ねぶたとは歴史的な物語や軍記物をテーマに作られた巨大張りポテ。内装された800個を越す電燈・蛍光灯で明々と輝く飾り物が一台に2千人のハネト(跳人、踊り手)を従え、ラヴェルのボレロを想わせる疲れを誘う単調、繰り返しの高音響囃しと共に隊列巡行する様は独特異様、観光客も知らずのうち興奮の渦中に。

青森2日目午後5時、飛鳥Ⅱは岸壁を離れ青森湾内所定の位置に投錨・停泊。陸と程よい距離で市街のたたずまいがパノラマ・スクリーンの如く眼前に広がる。西日が岩木山系に吸い込まれる如く納まり、祭最終日の行事であるね

ぶた海上運行と花火が始まる。フリードリンクでビールや清涼飲料水が配られ、ここは正に特等観覧席。北の夏の夜空を大花火大会のグランドフィナーレが焦がし、なぜか急にさみしくなった気配を長い汽笛が震わせ、船は横浜に向かった。

今回のクルーズには小生を含む全11名でのグループ参加。船内ダイニングルームではよく全員で卓を囲んだ。毎日がアルコールの有無を置いて、食事と言うより宴会ムード、いつも一番早く席に着き、最後まで居すわっていた。

クルーズ中の食事について、朝昼晩三度にティータイムが二回、午後のお茶ときには室内楽の生演奏あり。早朝のアーリーバード・ティーにミッドナイト・ブッフェがあり、ハンバーガー、アイスクリームにソフトドリンク類は船内各所で随時提供され総て無料。

船に乗るたび「なぜ同じところで食べても飽きないか?」と考える。毎日同じ客が同じレストランに通う。一週間ならまだしも、世界クルーズならそれが三ヵ月半続く。陸にあれば如何に高級なレストランでも「毎日はとても...」通例の日本人なら思いそうだ。

食べ物に関する不満は船にとって致命傷だからかなりの工夫が要る。同一航海中は同じメニューを出さない。折りに触れてテーブルクロスやナプキン、食器の意匠を変える。クルーズの初めと終わりの船長招待ディナーには趣向を凝らした料理が並び船客の誕生日、結婚記念などのアニバーサリーディには卓上が飾られ、クラシック・カルテットが盛り上げてくれる。

「レストランの善し悪しがクルーズを決める」ある船側の関係者は断言した。





幅9尺、奥行き7尺、高さ5尺  
ねぶた師をキャップに製作  
一基 2,000万円



最終日の夜、ねぶた飾りの最優秀1位から  
5位までの海上ひきまわし

## 名古屋ボストン美術館近況

ボストン美術館には、明治時代初期に来日した医者、ウィリアム・ビゲロー氏が収集した江戸時代の浮世絵約55,000点が所蔵されていることが知られているが、この膨大な作品について1996年頃から日本人研究者の現地調査の結果、版画と違う1点しかない肉筆の浮世絵約700点が発見された。

この一部、約80点が里帰りして、06年6月17日から8月27日まで、4階ボストンギャラリーにて「ボストン美術館所蔵肉筆浮世絵展—江戸の誘惑—」として一般公開され、大好評であった。

また、同期間に5階のオープンギャラリーにて、アメリカ近代写真のパイオニアの一人、エドワード・ウエストンの写真展が開催された。

この後の展覧会として、06年9月6日(土)から07年2月14日(日)まで、「ヨーロッパ肖像画とまなざし、16-20世紀の顔、ティツィアーノ/ヴァンダイク/ゲインズバラ/セザンヌ/ピカソ」展が開催され、ボストン美術館が所蔵する名品67組、71点が紹介されている。今回、ルネッサンスから19世紀初頭までは注文主の意向で写実的な絵(除く宗教画)が主流であったが、カメラが発明された19世紀後半以降は、印象派に見られる如く画家の芸術観に基づく描き方が主流になった変化が読み取れる展示になっている。

展示期間中、美術館学芸員によるギャラリーガイドも、次の予定で準備されている。

10月7日、11月4日、12月2日、1月13日。

いずれも土曜日の午後2時~2時30分、4階ボストンギャラリーで、当日の入場券が必要である。

なお、名古屋ボストン美術館の今年の展覧会は、次の予定が組まれている。

4階ボストンギャラリー 「アメリカの子供たち(仮題)」

5階オープンギャラリー 「夢をかたちに

アメリカ車のデザイン画(仮題)」

期間 07年3月17日(土)~8月19日(日)

### 幹事会記録(06年6月9日の項、つづき)

\*音楽の会: ストリート・ミュージシャンを紹介する「題名の無い音楽会」は実現出来なかったが、ボストン・ポップスの状況、会員になられた笠原慶昌氏のホルン・リサイタル(5月11日開催)、現在ボストンに留学中の金原さと子(ソプラノ)さん、木田陽子さん(ピアノ)のジョイント・リサイタル(7月14日開催)の報告があった。

\*次回幹事会: 9月12日(火)

## 幹事会記録

日時: 2006年9月12日(火)午後6時30分～9時

場所: 新宿・サミットクラブ

出席者: 18名

- \*佐々木会長: 11月7日の総会迄、その後を鶴正登氏に引き継ぐ、なお次々期会長に山村章氏を推薦する。総会でご承認をいただきたい。
- \*鶴正登次期会長: 茂木賢三郎元会長からご推薦をいただきました。どうぞよろしく。ハーバード・ビジネススクール同窓会(10月)に出席します。
- \*事務局報告: 新会員(1名)  
島田征夫氏(早稲田大学教授、井口武夫氏紹介)
- \*ゴルフの会: 10月6日(金)に開催する、泉カントリークラブ。10名参加の予定。
- \*お花見の会: 2007年春(未定)。
- \*紅葉狩りの会: 11月末の予定を繰り上げ実施します。(11月3日開催、別項参照)。
- \*クルーズの会: 久米氏が飛鳥IIに乗船。別項参照
- \*歌う会: 東京でピアノを利用できる場所が見つかれば再会できる。
- \*ハイキング・山の会: 来春開催に計画変更。
- \*美術の会: 上野・国立西洋美術館常設展を鑑賞、10月21日(土)、別項参照。
- \*音楽の会: 次回予定は未定。
- \*「ボストンへようこそ」: 現在、在庫あり。
- \*ボストン日本人会: 吉野先生が10月末に来日、総会に出席の予定。
- \*日本人学生会の記録: ホームページに掲載。別項参照。
- \*ホームページ: ハツコアップした。別項参照。
- \*歴史を飲む会: 日本橋界隈を歩く。別項参照。
- \*総会開催: 11月7日(火)別項参照。  
昨年総会でご承認された会則の発効を確認する。

## 幹事会記録(9月12日の項、つづき)

\*会報発行: 会報第28号は10月11日発送予定、次号の原稿締切りは07年1月末締切り予定。

日時: 2006年6月9日(木)午後6時半～9時

場所: 新宿サミットクラブ(出席者20名)

- \*佐々木会長: 茂木賢三郎元会長より次期会長としてご推薦をいただいた鶴正登氏(NOK株式会社社長・現ハーバード・ビジネス・スクール同窓会会長)をご紹介され、ご本人から73～77年に互る留学の思い出を語られるご挨拶をいただいた。尚、次々期会長候補としてハイテク・ベンチャー(ジャスダック上場)創業社長山村章氏(㈱フェローテック社長)をご推薦したいのご報告を受けた。
- \*新会員: 4人 鶴正登氏(NOK株式会社社長) 河東哲夫氏(元ボストン総領事、関直彦氏紹介) 井上恵美子氏(語学学校留学、森啓氏紹介)、小笠原正人氏(ハーバード建築学科、近藤氏紹介)
- \*ゴルフの会:  
4月20日の懇親ゴルフ会では近藤宣之氏が優勝、2位は山崎規矩子氏であった。次回は10月6日(金)泉カントリー開催予定。
- \*お花見の会: ボストンからの里帰りグループを交えての集まりは盛会であった。席上で油彩・水彩を描く会作品が紹介され好評であった。別項参照。
- \*紅葉狩りの会: 奥多摩・玉堂美術館計画中。
- \*ホームページの件: これまでに4万回のアクセスがあった。現在月間平均700回。ディスクの容量が10MBから20MBに増量された。
- \*京都ボストン交流の会: 総会・懇親会が6月25日に開催される旨報告があった。  
(追記 佐々木会長が出席された)(11頁に続く)

## 総会・懇親会のお知らせ(同封チラシ参照)

日時: 平成18年11月7日(火)午後6時開場、午後6時半開会。

場所: NEC三田ハウス芝クラブ(JR田町駅、都営地下鉄三田駅下車)

港区芝5-21-7、☎03-5443-1400

出席者: 当日払い お一人 6000円/同伴者5000円

事前送金 お一人 5000円/同伴者5000円

送金方法:

申し込み先: 日本ボストン会事務局(同封ハガキ、又はE-mailにて10月31日までに  
お知らせ下さい。

日本ボストン会の活動はホームページにてご覧下さい。http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~boston/